武蔵野市第六期長期計画策定委員会　作業部会（第７回）

日　時：平成 31 年４月 16 日（火）　午後６時 30 分～午後９時 57 分
場　所：市役所 811 会議室
出席委員：小林委員長、渡邉副委員長、大上委員、岡部委員、久留委員、栗原委員、中村委員、松田委員、保井委員、笹井委員、恩田委員
欠席委員：なし

１．開　　会

２．議　　事

（１）環境部・都市整備部・水道部ヒアリング
環境部長、都市整備部長、水道部長が各部で企画している事業の概要について説明した。

【Ａ委員】　今回の各部の事業説明は、市の皆さんが個々に計画を立てて、できることであって、必ずしも長期計画がなくても上がってくる話だ。討議要綱で意見として出されたアニマルウェルフェア、境山野緑地、エコロジカルネットワーク、ビオトープ、雑木林等は、どのように反映されたのか。
【環境部長】　これから起きるシビアな環境問題を頭出しする中で、武蔵野市への自然や環境をどう守っていくか、市民ニーズも含めて施策の体系に入れた。ただ、言葉として拾い切れていない部分もある。
【委員長】　第五期長期計画あるいはその調整計画から継続して行う部分についての説明ではなく、今回、討議要綱以降の様々な意見に対し、この先の 10 年間で推進していくことについての説明が欲しい。
【Ａ委員】　これまでの意見交換会で出された緑・環境分野の意見には、武蔵野市が世界に誇れる都市部の緑地整備計画を推進しようということに反対というものはなかった。エコロジカルネットワークの議論は、意見が採用され、反映されていることがわかるが、一部の人たちの議論に出てきたビオトープは触れられていない。ビオトープは学校に踏み込むことになるので、難しいというのであれば、そう言っていただけると、こちらもわかりやすい。

【Ｂ委員】　市民の方、議員の方、職員の方からいただいた意見がＡ４の一覧表で何十枚にもなるほど出てきた。例えば、女子大通りは、市民から、自分たちの生活が妨げられることになるので再整備は要らないという意見と、歩くのが大変だから整備するべきだという２つの意見があった。しかし、本日の説明は、女子大通りは道路を拡幅するという結論のみである。なぜ女子大通りをそうすると判断したのか、その根拠がない。外環の２も、ニュートラルな説明になっているが、東京都を刺激しないほうが得策だという本心があるのであれば、非公開の作業部会という場だからこそ隠さず出して議論してもいいのではないか。
【委員長】　それぞれの部で、意見に対して、特にこういう点を、こういう過程を経て、こういう理由で、こうしたということを言っていただきたい。

【環境部長】　エコロジカルネットワークという言葉は使っていないが、その意味合いは入れている。
　雑木林は、武蔵野市の緑がバラエティーに富んだ、質の高い特徴的な緑であり、我々も保全していくということでは、市民からの意見と方向性は合っていると思うので、「雑木林」という言葉を入れている。
　ビオトープは、緑の基本計画で議論した。学校の建てかえなどで、ビオトープの維持は今、難しい状況にあるが、ビオトープは学校以外にもある。緑を大事にするという市民の意識づけ、環境教育に使っていくことは緑の基本計画で既にうたっているので、長期計画には入れなかった。武蔵野市の伝統的な緑、緑と水のネットワークに、水辺空間という意味合いでビオトープも含めている。
　アニマルウェルフェアは、今、議論しているところだ。環境政策課の保全係には、生活のお困り事として、ペットや動物愛護に関する相談が毎日のように寄せられる。とはいえ、アニマルウェルフェアを公害や害虫駆除の項目に入れるわけにもいかない。重要な要素であることは認識している。

【都市整備部参事】　市内の都市計画道路の整備率は、南北方向が約７割、東西方向は６割弱である。また、都市計画道路は市施行と都施行に分かれており、整備率は、市施行が約８割、都施行は５割程度である。女子大通りは、吉祥寺東町周辺の生活道路にかなりの通過交通が流入するという問題が起きており、計画幅員 16 メートルに対して現況約９メートル（車道・約 6.5 メートル、両側の歩道約 1.25 メートル）のため、市政アンケート、パブコメには、歩道が狭くて危ないという意見がある。
　市は、東西方向の都施行路線の整備率は低いことから、女子大通り、五日

市街道、井之頭通りについて、歩行者や自転車の通行空間の確保や延焼遮断機能を持たせること等を要件として、平成５年の第三期長期計画から計画に記載し、東京都に事業化を要望してきた。今回は、平成 28 年３月に第四次優先整備路線に選定された都施行部分の女子大通りについての整備の必要性を討議要綱に記載した。ただ、優先整備路線の選定時から、沿道住民による動きが出ており、市は、意見交換会を行い、地域の課題・必要性について説明を行うなどの対応をしているが、今のところ住民団体とは平行線の状態である。また、討議要綱では、「都に要請する」という文言が多かったが、今回は市としての必要性を強調し、女子大通りについては、少し変化を加えた対応をとる形で調整している。

外環の２は、市民も議会も反対しているという文言を入れたらどうかという意見がパブコメに１件寄せられた。ただ、外環の２は武蔵野市１市にかかわる計画ではない。杉並区、三鷹市と３区市にまたがる計画で、他自治体では地元の「話し合いの会」も休止もしくは全く行われていない状況にあることから、今、市の意向を計画に明確に書くことは余り得策ではないと判断し、計画案は討議要綱のような記述を保つこととした。

【水道部長】　討議要綱では、一元化について書いている。一元化は、昭和 46 年の東京都の一元化計画以来、長い歴史がある。市は、東京都の計画に合わせてこなかったが、一元化を目指さなければ水道事業が保てないという現実がある。一元化は市長と市議会の意思として機関決定した方針であり、今回の討議要綱でも、一元化を目指すということで市民の皆さんにお諮りしている。市民の皆様からは、情報が開示されていない、議論が必要だとの意見が寄せられるが、平成 24 年の市の機関決定以来、毎年、市報の６月号に情報を掲載している。

ただ、一元化は、武蔵野市だけではなく、東京都の意思がかかわってくる。今、東京都は市と一元化協議をしている状況とは認識していないため、まずは都と市の間で物事を整理し、どう一元化をするのかという状況になってから、市民の皆様、議会にも情報を出し、議論のフェーズに入る。今回も、いろいろご意見をいただいたが、今の時点では市民の皆様と議論ができる状況には至っていない。

【副委員長】　一元化に関しては、私はその方針でいいと思うが、民営化という、これまでの前提条件にはない意見が寄せられた。私は、前提条件が変われば、ある程度検討し直した方針が出ると考えている。前提条件が変わるとは書けないが、そういう認識でいいのかを確認したい。

ボランティアに関する根拠法令について、ボランティアは、市民生活のほぼ全ての部分に密接にかかわってくる。しかし、根拠法令は、所管に関連するものだけになっている。これは少し縦割りが過ぎないか。委員会で横軸をつくるときの判断材料にしたいので、他分野との協働や協調を考える形で、関連する根拠法令を入れていただきたい。

ＳＤＧｓという大きな枠組みに関して、環境部は、「ＳＤＧｓの達成へ貢献することを目指す」としているが、この主語がわからない。これは国レベルのＳＤＧｓの達成なのか、今後、市として長期計画全体で考えるといったレベルのことまで勘案してのことなのか。

【水道部長】　民営化は、昨年の水道法の改正で出てきた議論と思われる。もともと水道法の改正で目指していたのは、民営化ではなく、これから経営が苦しくなる事業体の広域化、共同化だ。ただ、地方の基礎自治体が共同化しても、その基礎自治体が成り立たなくなれば、水道にかかわる職員がいなくなり、民間活力を入れなければ、保てないということになる。そこから急に民営化、コンセッションということがクローズアップされるようになった。また、東京都は日本最大の事業者であり、世界でも単一面積で言うと最大の事業であるため、そのような民営化をすることはないと考える。市民の皆様にご心配をおかけしたのだとすると、それはやはり情報が足りなかったことによるものと反省している。

【委員長】　おいしい水は、市民の満足度も高い。魅力的なまちをこれからつくっていくというときに、水は重要になる。ただ、経営の問題があって、安定的に、安全で、安心した水が供給されるように都と一元化をしていくというのであれば、おいしい水を、武蔵野の魅力の１つとして供給するということがあってもいいのではないか。

【Ｂ委員】　「大型下水道建設事業への対応」の事業費概算として、平成37年度以降、年間12億7,300万円が計上されている。この投資規模で下水道のリニューアルは実現可能なのか。この金額は小さいのではないか。

都市整備部関連で、ハーモニカ横丁が大事だというのは、吉祥寺の市民意見にも出ていた。ハーモニカ横丁は観光の形で書かれているが、中心市街地のコアな施設として、都市整備部で位置づける必要はないのか。

用途地域の変更について、用途地域を変更すると、メリットを被る人、デメリットを被る人が出てくる。市民の皆さんに平等に影響が出るならいいが、儲かる人と儲からない人が出てしまう不公平が生じるようなことは、軽々にやるべきではない。用途地域の変更は、都市計画においてはいわば禁じ手で

ある。地区計画で対応するのが原則ではないか。

生活道路への通過交通の流入に関する記述をいただいたことには、感謝申し上げる。ただし、女子大通りから流入する車の増加について、大きな心配は外環の完成である。外環が整備されると生活道路への通過交通が確実に増し、コミュニティ道路の破壊が一層厳しい状況になるので、外環開通に備えた対策として、ここで手を打っていくという形でもいいと思う。

【委員長】　ＳＤＧｓについての回答はどうか。

【環境部長】　環境を軸に、他分野との連携をどう展開していけるのか、2020 年 11 月の環境啓発施設エコプラザ（仮称）のオープンまでに考え、この活動がＳＤＧｓの 17 項目の何に貢献しているのかを明確化する。全庁的にＳＤＧｓにどう取り組むかがまだオーソライズされていないので、長計の中で、まず環境分野から頭出しをする。

下水道の 12 億円は、20 年かけて大型事業を展開する。使用料を４年ごとに値上げしていかなければならないなど、大きな課題があるところを今回意思表示することを考えている。

【Ｃ委員】　非常用の水源として地下水が使えるのではないかという話がある。地下水の管理に関することも、水道部になるのか。

【水道部長】　水道部は、一元化されると、なくなる組織である。よって、水道部は地下水管理ができない。東京都は、水道局ではなく、環境局で地下水の水位を追っており、武蔵野市としては、環境部がその情報を東京都からもらって、管理をしていくことになると思われる。

【Ｄ委員】　避難所となる小学校で、一元化とは関係なく、独自の水道を掘っている。ただ、水源と重なる部分については、水源を所管する東京都との今後の協議になる。

（２）市民部ヒアリング

企画調整課長が、各部長にヒアリングでの注意事項を説明した後、市民部長、市民活動担当部長、交流事業担当部長が、各部で企画している事業の概要について説明した。

【Ｅ委員】　コミュニティでは、同じ人が、いろいろな分野で、いろいろなことを担っており、ヘトヘトであるという話を何度か聞いた。このことについての対策または意見を出した市民に対するお返事になるようなこととして、もうひとつ踏み込めないものか。コミュニティづくりに向けて、あるいは市

民参加支援をするというのが、どうしてもコミセン回りのことだけ支援すると言っているように聞こえてしまう。

平和施策について、「戦争体験者が高齢化していく中、戦争の悲惨さと平和の尊さを次世代にどのように伝えていくかが喫緊の課題である」としている。しかし、もはやこんなことを言っていられる状況ではないのではないか。戦争体験者は 2020 年度に何歳で、2029 年度には何歳なのか。意見交換会での意見にもあったとおり、生の声を伝えることから、中島飛行機があった場所のような、土地の歴史・記憶・物にシフトしていかなければいけなくなっているのではないか。この先の 10 年を考えて、どういう話がなされたのか。

【市民活動担当部長】　担い手については、以前から行っている地域フォーラム、未来塾も含めて、この先、どう深化させていくのか、コミュニティ評価委員会で振り返り、バージョンアップをしていく。また、コミュニティセンターを中心としたコミュニティづくりの中で、コミュニティ協議会ではない市民活動をされている人たちとも交わり、新しい人たちが入ってくることを期待しつつ、次代の担い手について考えていくという趣旨に書き方を工夫する。

平和施策は、平和の市民の実行委員会と協働で実施しているが、戦争体験者は大変高年齢化している。ただ、生の声を聞くことが伝承に有効であるとの意見もいただいている。土地にかかわる歴史は、中島飛行機があった中央公園に、市がかかわって、東京都が設置した５枚のプレートができた。それは、ここに中島飛行機があったことを改めて実感できるものだ。計画案には、このあたりについても工夫して書いていきたい。

【委員長】　市民部で引き受けなければいけない新たな課題で、あえて取り上げなかったもの、検討しなかった課題はあるか。例えば、婚活支援やアニマルウェルフェアについて意見を言った方がいた。取り上げないなら取り上げないでいいのだが、なぜ取り上げないのかを市民に説明する必要がある。

【市民部長】　婚姻は個人の選択であり、武蔵野市は、積極的な形で絡むことはないが、民間やＮＰＯの方が支援することに特に反対はしていない。また、市民活動として助成金を認めている。

アニマルウェルフェアは、例えば動物の殺処分ゼロであれば、所管は保健所になるので、環境部が対応すると思われる。市民部というよりは、市という１つの自治体よりも大きいレベルの話になるのではないか。民間で、猫の譲渡会をはじめ各種活動をしている方はいるが、市民部内では特に話し合いはしていない。

【Ｆ委員】　コミュニティのところでは「協働」がキーワードになる。これ

からのコミュニティ委員会の提言にも、行政の役割、フォーラム等に行政の方も参加して、提案していくことが書かれている。例えば、地域コミュニティと目的別コミュニティのように、自然につながっていくものではないところには、協働ということが大きな力を発揮する。しかし、計画の文言として、協働を進めるということは書かれていない。コミュニティをこれからも活性化し、豊かにしていくというときには、やはり行政も協働で一緒にやっていくという姿勢が欲しい。

コミュニティ評価委員会が始まって、コミュニティの運営委員会に対する聞き取りのようなことが予定されているが、コミュニティに余りかかわらない、あるいはかかわる気持ちはあるがなかなか接点を持てない、コミュニティセンターは敷居が高いと感じている人は多い。コミュニティの運営協議会の人にばかり話を聞いても、偏った評価になる。コミュニティを本当に評価するには、幅広い調査なり意見聴取なりが必要ではないか。

コミュニティ評価委員会は、公募市民が２人から今回１人になった。数の上では市民参加の後退に見えてしまう。どう考えてコミュニティ評価委員会を組み立てているのかが気になっている。

平和について、武蔵野市民科は、教育、緑・環境、都市基盤など、どの分野とも密接にかかわる。平和の課題も、特に教育の分野と連携して、子どもたちに何を伝えていくのかというところを、縦割りではなく、いろいろなテーマに関して一緒にやっていくことを提案していけるといいのではないか。

パートナーシップについては、当事者という視点が欲しい。福祉の分野でも教育の分野でも、当事者、特に声が届きにくい人たちの声を丁寧に拾って、計画なり政策なり取り組みなりに生かしていこうという姿勢、視点があるといい。

武蔵境に国際交流協会があるのはいいことだと思う。お祭りなどはとてもにぎわっていて、各国の人たちが友好的に食べたり飲んだりおしゃべりしている。ただ、スイングビルの上層階にあって、余り知られていない。武蔵境の北口の、もっと目につくところに拠点があれば、多くの皆さんに知ってもらえて、活用できる。境がそういう場所になるようなビジョンを描けないものか。

【市民活動推進課長】　協働は、計画全体を貫くものとしてあると理解している。その中で今回、地域フォーラムは、コミュニティの検討委員会の中で、理想論としては、市民同士の発意や、行政の発意で開催されたり、市民活動団体、場合によっては企業も巻き込んだ形で開催していくものであるということを掲げている。行政からの働きかけで、地域を盛り上げていくことも手段としてはあるが、フォーラムの趣旨を理解した上で「市民間の意見交換が

生まれるよう、支援策を検討する」としている。

評価委員会は、広く意見を伺うため、コミュニティセンターに来場している方、運営委員の方からの評価のためのアンケートをコミュニティセンターに送付した。また、18 歳以上の無作為抽出市民 2,500 名にもアンケートを郵送している。コミュニティについての意見を広く伺いながら、コミュニティの評価につなげていく。

【交流事業担当部長】　国際交流協会の拠点がスイングビルにあることを市民に知っていただくことは、協力を仰ぎ、協力者を増やすためにも非常に重要だ。場所の周知を徹底していきたい。

【G委員】　行政の皆さんは、既存の施策や制度の概念の中で捉えていきがちだが、そこが根底から変わっているということを私は策定委員会で言い続けている。

まず、「在住外国人のニーズ把握と各分野連携による支援」について。今、武蔵野市では、外国人の居住者が増えて、従来の「外国人との交流」という域を超えてきている。つまり、日本語の問題とかコミュニケーションの問題だけではなくて、行政手続から日常のごみ出しに至るまでの「生活者」として、「市民」として外国人をとらえなければならない。その上で、文化、生活習慣の違う環境から来た人たちを受け入れていく。そのコントロールを市民部の交流事業課がしていくのか。

健康福祉部には外国人人材の話が出てくるが、これはあくまで介護分野だけの話だ。しかし、在留資格は6分野にわたり、外国人は非常に広範囲で入ってくる。これを市はどう受けとめているのか。その総合調整はどこがするのか。

アニマルウェルフェアについては、市民の方からの意見に対し、論議を全くしていなかったことを委員長が申し上げ、私も「討議要綱に書いていない」と説明した。次に市民と対峙したときに、アニマルウェルフェアについてはどういう議論になり、どう整理がなされたかの回答をすることになる。先ほどのヒアリングによると、従来の行政手法では、動物愛護管理法という法的根拠に基づいて整理されているので、環境問題になるとのことだった。私も動物愛護管理法に関することを調べているが、国でも動物を対象とする施策は省庁を超えて多岐にわたっており、武蔵野市の市民生活の様々な場面にも動物がいる。このことを市はどう考えているか。

長期計画には言葉としてアニマルウェルフェアが書かれていないので入れてくれというのが、市民の意見だった。ただ、アニマルウェルフェアという言葉を曖昧な定義のまま入れるのは非常に危険だ。市は、このことをどう整

理して、環境の部局で扱うことにしたのか。また、意見を出した方は、ボランティア活動もされているので、ボランティア活動の支援を所管する市民部にも関係する。市民部では、具体的にどんな調整と議論がなされたか。

【交流事業担当部長】　在住外国人について、留学生が中心だった時代は、国際交流協会で、日本語を教えることによる生活支援をしていたが、今は総体が増えて、多様化している。議会でも、来街者についてはどこが所管になるのかが話題になった。来街者支援、災害対策、外国語しかわからない帰国児童の学校での支援など問題は多岐にわたり、交流事業課のみで全部を把握、解決するには無理があるため、庁内外の横断的な情報共有の場をつくり、総合的、複合的に対応していく。所管については未定である。
【市民部長】　外国人について、在住の方には子育て、教育、就労、国民健康保険、障害・介護保険などがかかわってくる。ただ、市外に居住し、市内で勤務する外国人の方については難しい問題で、行政としては全庁的な形で対応していくことになる。
　雇用については、市が直接雇用するというよりは、市民部であれば、人材不足の中小企業の方のご相談に乗る形になる。
　アニマルウェルフェアは、私も正直なところ、ペットのことしか頭に浮かばなかった。動物園や学校での飼育、実験用の動物についての所管、定義については少し預からせていただきたい。
【Ｇ委員】　いずれの問題も、長期計画として考えると、今後も問題が深刻化する中で避けては通れない問題だ。この問題に触れた途端に、行政のところに来るので慎重に対応する必要がある。

【委員長】　「文化振興基本方針に基づく文化施策の推進」の「次期（平成37年度～）の指定管理者選定のための要求水準書の整備」は、平成37年度からのものを35年に見直すということか。
【市民活動担当部長】　類型別の計画も含めて、指定管理をする前の要求水準書の作成を平成35年度までにする。プロポーザル等で競争する形になった場合は、それなりの準備が必要なため、２年前という形にしている。

【Ｂ委員】　「麦わら帽子」に関しては、今までの様々な意見を反映していただいたことにお礼申し上げたい。私も、できる限りの協力をしていきたい。

（３）総合政策部・総務部・財務部ヒアリング
　企画調整課長が、ヒアリングの際の注意事項を伝えた後、総合政策

部長、総務部長、財務部長が、各部で企画している事業の概要について説明した。

【Ｅ委員】　公会堂についての質問がたくさん出されたが、どう反映されているのか。
【企画調整課長】　都市基盤分野で課題として挙げている。また、市民部の「劇場・ホール等の文化施設のあり方の検討」で、各駅圏の文化施設について、2019 年に検討がなされる。同時に、庁内で部横断的に検討する体制をつくる。

【Ａ委員】　自己啓発プログラム拡充について、例えば留学や研修、地域外での地域貢献プログラムを推進するべきだ。市の職員が、今後変化するであろう社会に柔軟に対応していくには、スキルと基本的な考え方のディベロップメントが必要だ。例えば、外国人への対応はどうするのか。対応しないのか。
【総務部長】　自己啓発という面での内容は、「多様な人材の確保と育成」に含まれる。

【Ａ委員】　予算は 300 万円でなく、私の感覚では３億円くらいが必要である。実行可能な事業計画としては、予算規模が全く話にならない。

【Ｂ委員】　私もＡ委員と基本的には一緒だ。今回、率直な感想として、変なねじれが起きている。委員会メンバーはもっとお金を使ってもいいから職員の人材育成に対して積極的に踏み込もうと言うのに、ワーキングは「市の制度上、それは無理だ」とブレーキを踏む。市民は、武蔵野市が日本でトップの地方自治体をつくるという大きなビジョンを期待している。これには市民としての意識の向上、市民のスキルアップとともに、市職員の能力の向上が両輪の軸となる必要がある。そのための予算は 10～20 億のプロジェクトを削減してでも確保すべきで、それをしなくてもいい財政余力が、少なくとも５～６年の間、確保されているのであれば、人材育成をしないで何をするのか。
　育成した人材が退職や転職をしてしまうという痛みを恐れずに費用を投入していくことで、より優秀な人材が武蔵野市役所の職員になりたいと思うようになる。その彼らが中心になって、職員の定着のための施策をするようになる。ＭＢＡ（経営学修士）とかＭＰＡ（公共経営修士）資格を持つ人には、

それだけ経験値とスキルを期待できると思う。自己啓発による通信教育レベルではない訓練を受けさせて、真にレベルの高い市職員を育成しなければ、今計画している施策の展開はできない。パブリックコメントには、市の職員の給与を削減しろという唖然とする意見が寄せられていたが、そういうネガティブな意見に対して正面から議論していける人材の育成こそが必要だ。ところが、市側はどうも大人しい方向へと向かおうとする。

また、武蔵野市は、これだけゆとりある財政を持っているのであれば、もう少し外部コンサルの活用を検討してもいいのではないか。武蔵野市は自前主義に偏り過ぎている。そうすることが市職員のスキルアップになっているのも事実だが、都市計画や景観ガイドラインにはコンサルがいるし、前市長はコンサルをされていた方だった。コンサルの言いなりになるのはまずいが、有識者に相応のフィーを払って任せることで学べることは多いし、結果的に職員の残業時間は削減される。

【副委員長】　今の意見には全く同意だ。特にＲＰＡは、横浜市の報告書が実にセンセーショナルだった。武蔵野市はそこまでひどくないと個人的には思っているが、教育のためにはお金をかけるべきだ。

総合政策部にかかわることについては、「組織のあり方の検討」で、外国人の共生についてがない。高度な専門性が必要な分野であり、教育、子育て、医療、都市基盤等、多分野にわたることであるのに、出てこないのはなぜなのか。

また、ＳＤＧｓは、行財政の指標となるだけでなく、様々な資源をどのように投下していくのかを考えていく指標になるものだ。もっと大きな目標として掲げていかなければいけないのではないか。

【総合政策部長】　外国人については、私も先ほどの意見を聞いて、まさしく交流のレベルではなくなっていることを改めて認識したところだ。

【企画調整課長】　武蔵野市は、エコプラザを環境の観点でＳＤＧｓとして掲げている、どの目標に対して、どういう進捗管理をしていくかというところまでやっていく。全分野にかかわるところでは、武蔵野市のＳＤＧｓが長期計画だが、今は、第六期長期計画に全ての指標としてＳＤＧｓを入れる。目標設定をするには時間的に難しいので、課題を何らかの形で記載しつつ、第六期長期計画の施策が 17 項目のどれにあたるかの整理をすることが第一歩と考えている。

【Ｆ委員】　前回の策定委員会で、長期計画は一体何をやるところかという議論があった。例えば今、学校教育基本計画は、個別計画の専門の方たちがつくっている。その学校教育基本計画にかかわるところは長期計画に書かれ

たこれでいくというように、長期計画が先に決める形にはなっていない。であれば、長期計画で書かなければならないことは何なのか。この 10 年で目指すべき大きなビジョン、その組み立てと、分野にまたがる様々な課題について方向性を示すのが、長期計画の取り組むべき課題なのではないか。そういう組み立ては、最初から準備していかないと難しい。

市民会議の議論も、６つの各分野について時間をとってはいるものの、おのおのが、こういうことをしたらいいという個別の政策、取り組むべき課題を出し合って、ほんの少し話をしただけだった。本来は、展望や、こうあるべきということ、基本的な考え方とか基本的な目標といった大きなところを最初に話す必要があるのではないか。また、長期計画をどうつくっていくか、ということを考える必要があるのではないか。

総務部には適正化計画があり、人を減らすばかりではないという話があったが、職員のアンケートを読む限り、やはり人が足りない。残業時間が多摩で一番長いという状況には、Ｂ委員の言われたような手法を持ち込むことで、ある程度の改善もあり得る。これから市民との協働を進めていくといっても、市民と直接かかわる部署に人を増やさなければ、難しいのではないか。

前回の財政計画は、２年ぐらいの単位で見通しが変化した。これまでは長期計画をつくるときに合わせて財政計画をつくり、それで回していたが、もう少し早い単位で財政計画を見直す時代になってきているのではないか。

【企画調整課長】　個別計画は、個別分野についての計画を個別最適でつくる。長期計画は、全市的な視点を束ね、その中で優先順位をつけていく。第六期長期計画も、最初にインプットをさせていただいて、基本目標、基本課題を９月、10 月に検討した。そこから課題、論点を挙げていき、討議要綱を経て、今回、ヒアリングを行って、最初の目指すべき姿、基本目標、基本課題という大きなところについての検討をする。同時に、各部の職員がワーキングとして策定委員会のそれぞれの分野に入って、最上位計画である長期計画と整合をとっていく。例えば、この年度末に策定された産業振興計画は、昨年の夏からの長期計画の議論を一定程度反映させた形である。

【総務部長】　人材育成の重要性は、私どもも痛感している。今後の人材の育成がうまくいかなければ、当然、行政サービスは滞る。金額的には小さいが、拡充していきたい。

定数については、職員定数適正化計画があり、職員の健康管理と残業時間軽減のために、毎年人事から所管課にヒアリングをして、適正な人数を査定している。必要な場合には加配する。ただ、国からの突発的な事業などもあり、人がいない場合は、非常勤の職員で対応することがある。

【財務部長】　財政計画は、長期計画策定時と、毎年の予算を組むときにつ

くる。長期計画の財政計画は、長期計画をつくる上で、それが財政計画の中で裏打ちできるか、その計画を実行できるかを示すものだ。財政計画は、長期計画とセットで考える。特に、歳出はある程度見込めるが、歳入は、景気等でどうしてもずれるので、基金や市債で調整する。毎年のずれは、その年の収入、必要な支出を見た上で、新規事業や投資的経費で調整する。長期の財政計画は、長期計画に合わせたスパンでいいと考えている。

【Ｂ委員】　財政計画は、公共投資を１つやるかやらないかで大きく変わる。しかし、現状の武蔵野市の財政状況であれば、多少の下振れがあっても、基金を取り崩せば対応できる。要は、公共施設建設で分を超えた投資さえしなければ、問題はない。

人材育成について、武蔵野市の市職員は日本のトップを走るようであってほしいという話をすると、職員はいつも「それはできない」と言う。できない理由は何か。

【委員長】　武蔵野市の職員が、そもそも自治体のトップになりたいと思っているのかどうかを聞きたい。市民は、ぬきんでて、すぐれた自治体として邁進していってほしいと思っているが、市は他の自治体と横並びでいいと思っているのではないか。武蔵野市がトップを走って、すぐれてほしいということが、市民と共有されているのかを問いたい。

【Ｈ委員】　職員の代表として答えるべきどうかはわからないが、あくまでも個人的な感想として言わせてもらえれば、20 年ぐらい前は、武蔵野市はリーディングシティー、全国の自治体のトップランナーという意識で施策を企画立案し、業務を遂行していた。その結果が、今あるムーバス、テンミリオンハウス、レモンキャブといった具体的な形になっている。しかし、その後は、人材育成方針として、チャレンジする組織をうたってはいるものの、全国発信できる施策や事業の企画立案が余りできていないと感じる。学校の建て替えなど公共施設の大きな改修があり、財政的に厳しくなりそうだということがすり込まれている。また、武蔵野市の財政力や施策の水準は、市の中にいるとわからなくなっていると思われる。我がまち、我が業務を客観的に評価分析ができる人材の育成が必要だ。職員は、全国のトップランナーであろうとしていないわけではない。

【Ｂ委員】　であれば、市長、副市長のトップダウンがなければ、現状では人材は伸びない。武蔵野市には今、職員を伸ばしていける土壌と財政のゆとりがある。市長のトップダウンで決めていくことができないのであれば、長期計画の委員会で決めて、長期計画に書き込むしかない。

【Ｆ委員】　全体のことは最初に話し合ったことになっているが、真ん中あたりでももう一度考える機会があるといい。最初は何も知らないところで話し合っているので、手探りな感じが強い。組み立てたものが、そう大きく外れてはいないにしても、検討を始めてから半年以上たち、多くの方からの意見も聞かせていただいたところでもう一遍、長期計画で何をするのか話したい。

【Ｇ委員】　先日、他の自治体の総合政策部長とお会いする機会があった。その際、武蔵野市の長期計画のあり方、市民の意見を吸い上げ、それを施策に反映させていくというプロセスは大変参考になると言っておられた。市民のポテンシャルの高さにも驚いておられた。この長期計画のプロセスとポテンシャルの高さという点において私は武蔵野市はリーディングシティーだと思っている。それを誇らずして何を誇るのか。

　ＩＣＴ化、ＡＩ化について総務部へ質問したい。行政も民間も、業務がシステム化され、データへの依存度が高まる中、市は災害時のデータ喪失について、どのように対応していくのか。市は市民の生活と安全を守るということであれば、市民のデータをどう確実に守っていくのか。武蔵野市が激甚災害に遭った場合、姉妹都市は守られるというのであれば、そちらにデータの保存をお願いすることがあってもいいのではないか。そういうリスクをどう考えていくのか。

【総務部長】　市役所西棟は、地震があった場合にも停電しない構造になっているが、万が一電源が切れた場合は、データが消失しないように冗長化を図っている。なおかつ、首都圏にある専用データ保管所にデータを転送し、保管している。

【Ｅ委員】　首都圏内では距離が近すぎるため、冗長化していることにはならない。

【Ｇ委員】　東日本大震災も、北海道のブラックアウトも、「想定外」だった。起こると思っていないことが起こったときのことを考える必要がある。

【Ａ委員】　少なくとも西日本ぐらいに置かないことには話にならないということぐらいは理解してほしい。

【委員長】　Ｆ委員の発言にあったように、長期計画の目標などについて、もう一回見直したい。各種意見交換では、様々な人が武蔵野市のすごさについて意見を言っていた。中でも私はクリーンセンターがすごいと思う。住宅地にある市役所の隣に迷惑施設というのは、お金があるからというだけでできることではない。市民の理解があり、市民との関係を築いてきたからこそ

できたことだ。武蔵野の自治体としての歴史を共有していくことは大事で、市も、コミュニティ構想を理解してほしいと市民に言う以前に、市が施策の先進性を理解する必要がある。職員の留学や大学院入学の制度をつくることにも、もっと積極的でいい。財政についてもあわせてこれから考えていきたい。

企画調整課長が、各部ヒアリング２日目に関する連絡事項を伝えた後、武蔵野市第六期長期計画策定委員会第７回作業部会を閉じた。

以　上